

e-6) ベニツチカメムシ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州、奄美大島、沖縄本島に分布する³⁷⁾。佐賀県内では、脊振山系、多良山系の雑木林⁶⁾における記録がある。

照葉樹林内にすむ³⁷⁾。餌はヒサカキ、ツバキ、シイ類、オオカグマ、ネジキ、ウラジロ及びハマキガの幼虫³⁸⁾である。幼虫はボロボロノキの実(核果)を吸汁して成育する³⁷⁾。雌は産卵後、卵塊を保護するばかりでなく、孵化した幼虫に餌を運んで与える習性がある³⁷⁾。

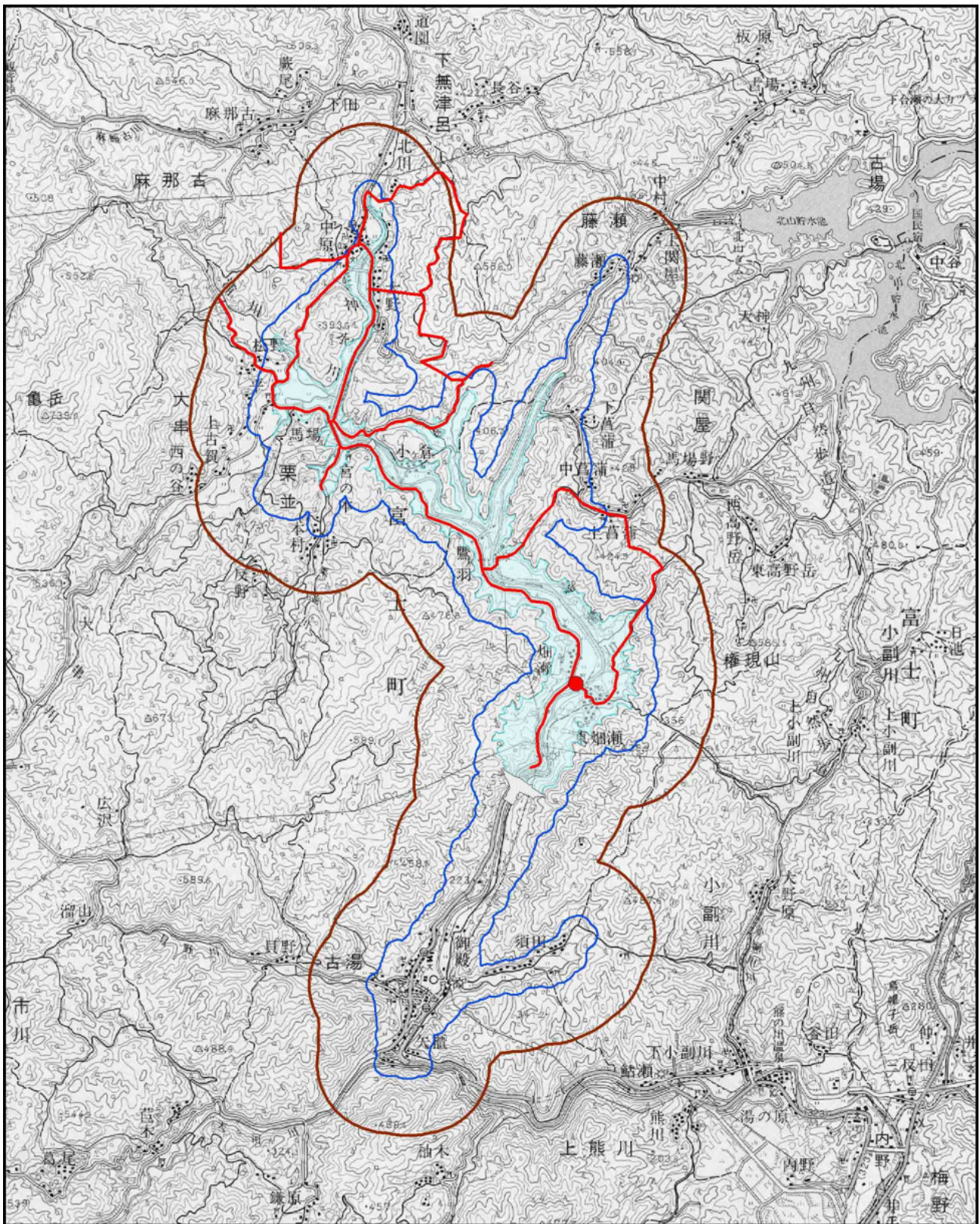
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(5)に示す。

本種は、平成 9 年度の調査において、嘉瀬川の畑瀬橋付近 1 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に対象事業実施区域内の踏査経路上において確認された記録がある。


平成 9 年度の確認地点は、畑瀬神社の周辺であり、1 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に常緑広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

  } : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-7(5)
ベニツチカメムシ確認地点

*: この経路内で確認した記録がある。

e-7) アカスジキンカメムシ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する³⁷⁾。佐賀県内では、多良山系、天山山系の雑木林⁶⁾における記録がある。

本種は、山地の樹林に生活しコナラ、フジ、ミズキ、キブシ、ヤシャブシ、エゴノキ、ホオノキ、ヌルデ、ハゼノキ、キハダ等の落葉広葉樹、ヒサカキ、ツバキ、アオキ等の常緑広葉樹、スギ、ヒノキ、クロマツ等の針葉樹などから発見される³⁷⁾。繁殖時期の調節等の生活史の決定には、日長が重要な役割を果たしている³⁵⁾。幼虫で越冬する³⁵⁾。

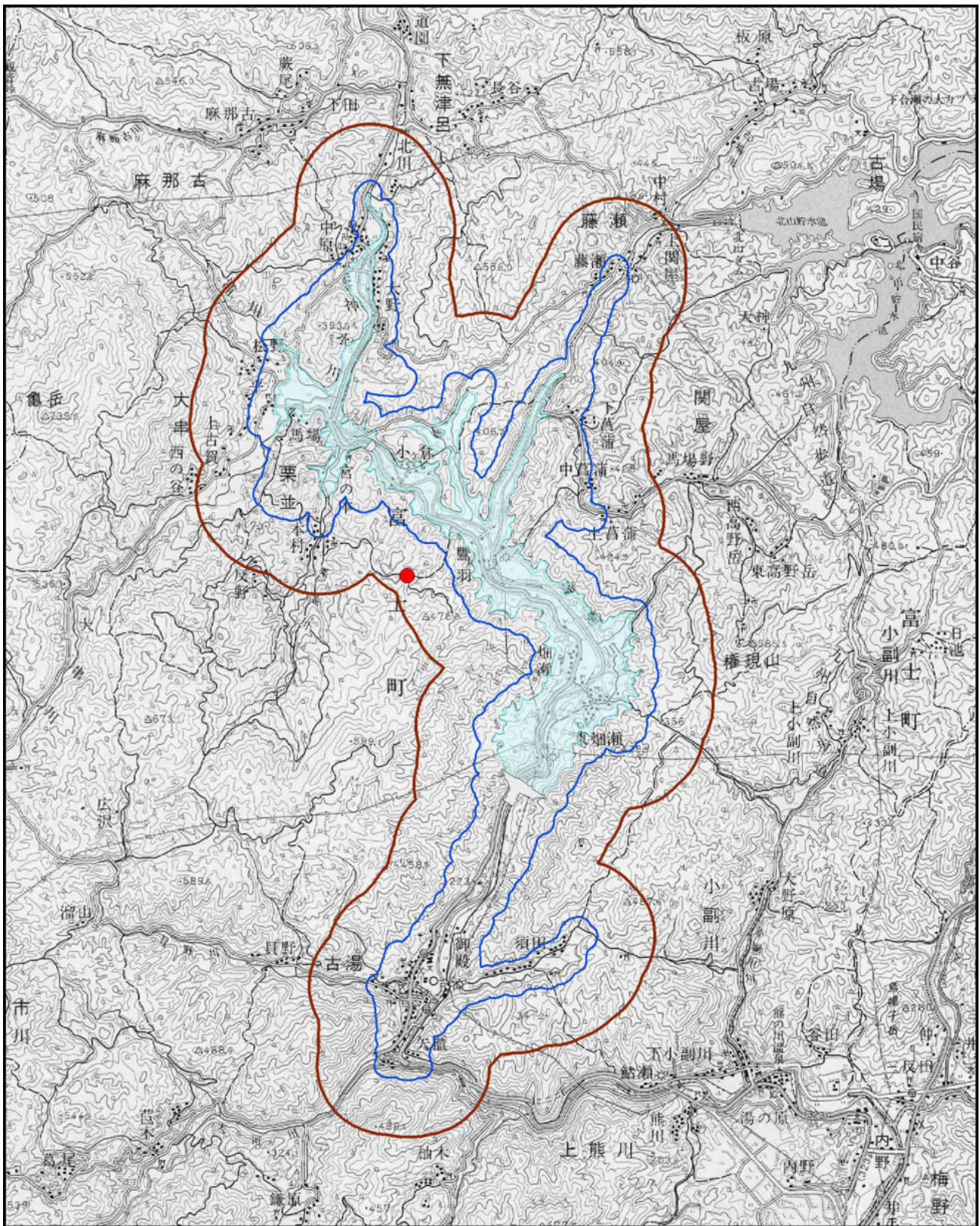
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(6)に示す。







本種は、平成 14 年度の調査において、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部 1 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、スギ植林の林縁であり、1 個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

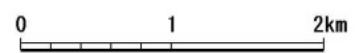


図4.1.5-7(6)
アカスジキンカメムシ確認地点

e-8) ミヤマセセリ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「九州全域で衰亡が著しく、佐賀をはじめ福岡、長崎、宮崎各県のレッドデータリストでも準絶滅危惧種と扱われている」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州、対馬等に分布する³⁹⁾。佐賀県内では、鳥栖市、三養基郡、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、多久市、武雄市、杵島郡、鹿島市、唐津市、東松浦郡¹⁴⁾における記録がある。

疎林をまじえた原野、山地の路傍を敏活に飛び、枯草上や地面に好んで止まる³⁹⁾。レンゲ、タンポポ、スミレ類、ダイコン、ヤマザクラ等多くの花で吸蜜する⁴⁰⁾。幼虫の食草はコナラ、クヌギ、カシワ等のブナ科³⁹⁾である。年 1 回 3 月中旬～4 月下旬に発生する³⁹⁾。越冬態は終齢幼虫(終齢の齢数は 5～8 齢と観察に差がある)⁴⁰⁾である。

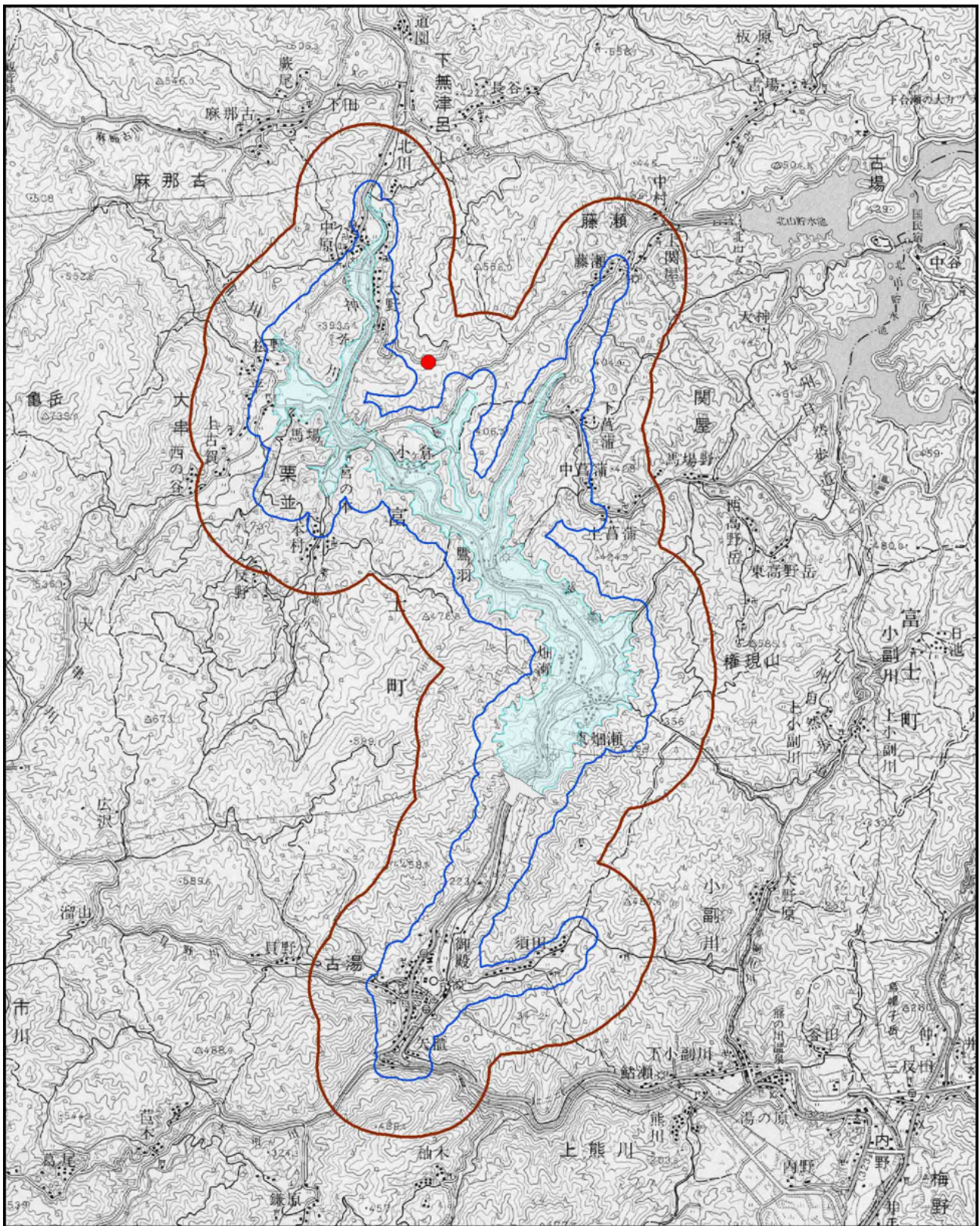
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(7)に示す。







本種は、平成 6 年度の調査において、大野地区の大野集落東の山間部 1 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、文献⁴¹⁾において古湯城山公園で確認された記録がある。

確認地点の環境や確認された個体数等の詳細な情報は、不明である。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にコナラ、クヌギ、カシワ等の落葉広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

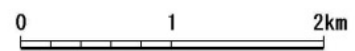


図4.1.5-7(7)
ミヤマセセリ確認地点

e-9) ホソバセセリ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は本州、四国、九州(対馬を含む)、種子島、屋久島に分布する⁴⁰⁾。佐賀県内では鳥栖市、三養基郡、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、多久市、武雄市、杵島郡、西松浦郡、藤津郡、鹿島市、唐津市、東松浦郡、伊万里市¹⁴⁾における記録がある。

成虫は日の強く当たらない樹林周辺や空隙地に多く生息し、比較的緩やかに飛び、草上に止まり、ウツボグサ、ヒメジョオン、オカトラノオ、ミゾハギ等の花で吸蜜し、湿地に吸水に集まる⁴⁰⁾。ススキを生ずる荒地、丘陵地から山地の路傍に多い³⁹⁾。幼虫の食草はススキ⁴⁰⁾、オオアブラススキ、カリヤス、カリヤスモドキ等のイネ科⁴⁰⁾である。通常年 1 回、6 月下旬～7 月下旬に出現するが、南九州等暖地では 9 月に入って第 2 化が現れることがある⁴⁰⁾。越冬態は中齢幼虫⁴⁰⁾である。

iii) 調査結果

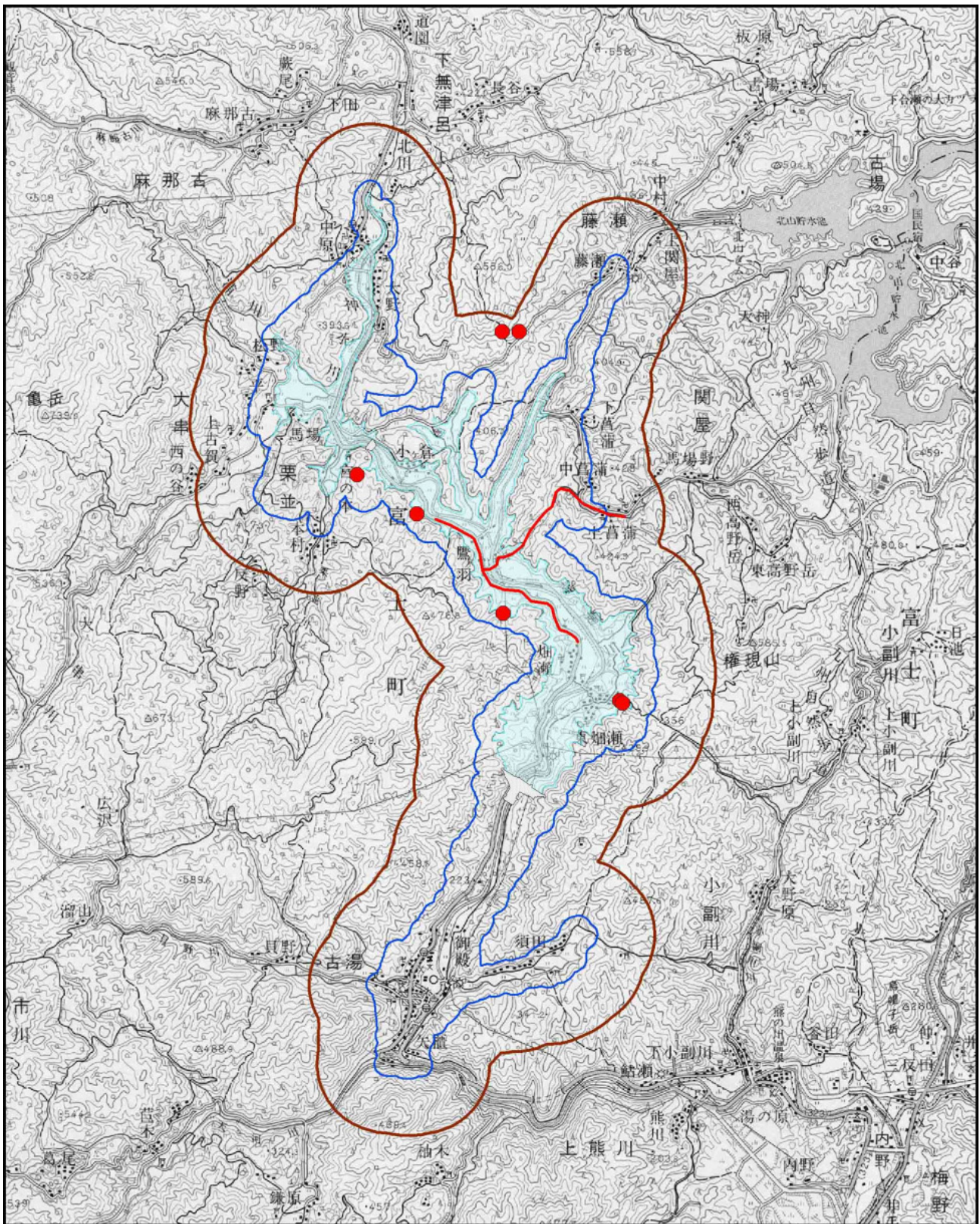
調査による確認地点を図 4.1.5-7(8)に示す。

本種は、平成 15 年度の調査において、藤瀬地区の藤瀬集落南西の山間部 2 地点、関屋地区の東畑瀬集落南東の林道沿い 2 地点、合計 4 地点で生息が確認された。また、平成 12 年度の環境巡視において、栗並地区の鷹ノ羽集落北東

の沢周辺 1 地点、宮ノ本集落南東の山間部 1 地点、鷹ノ羽集落南の沢周辺 1 地点、合計 3 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に畑瀬周辺の経路上において確認された記録がある。

確認地点の環境は、道路沿いの林縁草地等であり、成虫が各地点で 1 個体ずつ確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にススキ等が生育する草地に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

  } : 確認地点



1:50,000

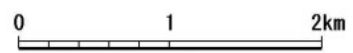


図4.1.5-7(8)
ホソバセセリ確認地点

*: この経路内で確認した記録がある。